

## 27 更生訓練所利用者の健康問題に関する現状

看護部 外来・入所者診療室 川村のぶ子 木内玲子 佐久間肇

### 1、はじめに

更生訓練所利用者(以下利用者と略)のほとんどは、障害に関連する合併症管理、進行性疾患や慢性疾患の管理を必要としている。昨今では、障害の重複や重度化した障害の利用者が増えている。障害のある利用者が、生活の質を維持・向上させていくためには、自己の障害を認識し、健康の自己管理能力を高めることが重要な課題である。入所者診療室では、健康の自己管理に向け、「情報提供」「動機付け支援」「積極的支援」の必要性に応じた計画的な健康指導を実施してきた。今後さらに、より充実した健康教育を展開していくためのプログラム開発が必要である。そこで、その基礎データとして、過去3年間の利用者の入院疾病の統計、および平成18年度の生活習慣病保有状況をまとめたので報告する。

### 2、方法

- 1) 平成16年度・17年度・18年度の過去3年間の入所者診療室の入院記録(利用者が入院した場合、利用者本人、国リハ病院、および指導部・理教部の職員から連絡があり、その際の病名などを記録したもの)から、入院疾病ICD-10の大項目に基づいて分類した。
- 2) 平成18年度利用者の面接による健康調査と健康診断結果から、「異常あり」と判定された項目を集計した。さらに、これらの項目から、肥満・高血圧・高脂血症・糖尿病の生活習慣病保有状況について調査した。

### 3、結果

#### 1) 入院疾病について(表)

- ① 全障害に共通した入院疾病の第1位は消化器疾患であり、全体の20%を占めていた。そのほとんどは、発熱・下痢・嘔吐を伴う胃腸炎の発症であり、受診当日の緊急入院であった。自発的な受診行動の欠如や受診相談の遅れが見られた。
- ② 障害別の入院疾病を見てみると、障害に起因する以外の疾患が多い。
- ③ 循環器疾患・呼吸器疾患は、全障害に共通して見られた。とりわけ、循環器疾患の脳梗塞・脳出血、狭心症等は、生活習慣病・メタボリックシンドロームの進行との関連性が深いことが示唆され、自己管理への予防的アプローチが重要課題として示された。

#### 2) 健康診断結果と生活習慣病(図1・2)

- ① 平成18年度の利用者309名に実施した健康診断では、肥満が約30%を占めている。
- ① 就労移行支援(養成施設)利用者では、63%が典型的な生活習慣病保有者であった。
- ② 就労移行支援(養成施設)利用者の38%が2項目以上複数のリスクファクターをもっていることから、合併症予防の観点が必要である。

### 4、入所者診療室の今後の課題

- 1) 生活習慣病と入院予防の要点を整理し、健康支援プログラムを完成させる。
- 2) 障害共通教育・障害別教育の実践と有効性の検証。
- 3) 入所時面接における健康尺度を用いた細目の検討。

表 平成16年度・17年度・18年度(3年間)更生訓練所利用者のICD-10分類による入院疾病

n=173

分類	全障害	肢体	視覚	聴覚	内部
消化器疾患	35	16	16	3	0
尿路系疾患	26	13	13	0	0
精神及び行動の障害	19	14	3	2	0
循環器疾患	18	6	10	1	1
皮膚及び皮下組織の疾患	16	13	3	0	0
内分泌及び代謝疾患	12	3	8	0	1
呼吸器疾患	12	6	4	1	1
神経系疾患	10	8	2	0	0
眼及び付属器の疾患	9	1	8	0	0
損傷、及び外因の影響	6	2	3	1	0
筋骨格系及び結合組織の疾患	5	3	2	0	0
耳及び乳様突起の疾患	2	1	0	1	0
血液疾患	1	1	0	0	0
新生物	1	1	0	0	0
感染症	1	0	1	0	0
	173	88	73	9	3

図1 平成18年度更生訓練所利用者の生活習慣病保有状況

入所時健康調査と健康診断からの調査(利用者309名)

- ・ 糖尿病(糖尿病と診断されている者)
- ・ 高血圧(高血圧の診断を受けている。または収縮期血圧140以上 拡張期血圧90以上)
- ・ 高脂血症(診断を受けた者)
- ・ 肥満(BMI 25以上)

n=309

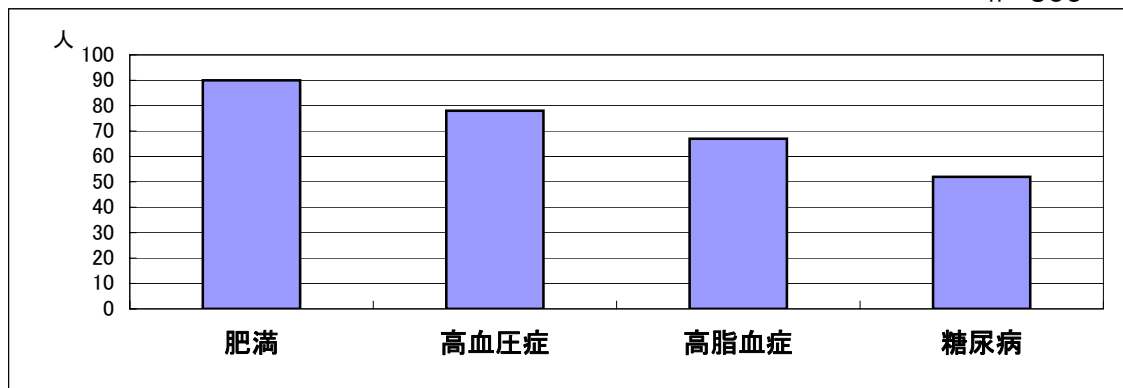


図2 視覚障害者 就労移行支援(養成施設)利用者127名

生活習慣病保有者の実態  
(糖尿病・高血圧・高脂血症・肥満)

